

学校法人盛岡大学附属厨川幼稚園

平成 22 年度自己評価

1、教育目標

キリスト教精神に基づき、健康で明るい心豊かな子どもを育てる。

- ・ 心も体も健やかな明るい子ども
- ・ 豊かに感じのびのびと表現する子ども
- ・ 意欲を持って活動に取り組む子ども

2、本年度の目標

- ・ 園の教育目標と幼稚園教育要領を関連させ、保育内容の充実を図り子ども一人一人の、ふさわしい生活が展開されるような長期的な見通しを持った指導計画を立案し、実践していく。
- ・ 園が親と子の育ちの場となるように、園全体の教職員の協力体制を充実させ、教師、親、子が深くかかわりあった幼稚園教育が実現していくような園のあり方を実践していく。

3、評価項目の達成と取り組み状況

I 保育の計画性について

- ・ 日々の保育の中に、幼稚園教育要領を身近なものとして常に園の教育方針と重ねて考え取り組めるよう意識付けたい。
- ・ 現在見直しを行っている教育課程については幼児の発達、園の実態、地域の実態を考慮し、入園から修了までの長期的な視野の中で、よりふさわしい園生活が展開できるよう改善に努めている。園の教育理念や教育方針が実現できるような、具体的なものとして変遷している途中である。
- ・ 園内の環境については、日々丁寧に清掃をするよう心がけているが園舎の老朽化が激しくなかなか管理が難しい。清潔感のある園舎を目指し出来るところから改善に努力している。

- ・ 園舎の用具遊具の安全対策については、安全点検チェックシートに基づき毎月定期点検を行い危険防止に努めている。
- ・ 園庭に木のベンチを設置することで園庭の環境の充実を図る。保育の中での活用を研究検討しながら活かしていく。
- ・ 異年齢交流については、普段の保育の中で意図的に取り入れ互いに刺激となるような取り組みを意識し行ってきた。子ども達の姿から成果が見られた。
- ・ 保育の評価反省については、定期的に教師間で検討を行えた。
- ・ 前年度から行っている年長を対象としたサッカー教室は、今年度回数を増やし行う。クラスの仲間と共に体を思い切り動かし遊ぶ楽しさを味わうことができた。

Ⅱ 保育のあり方・子どもへの対応

- ・ 健康と安全への配慮については、事故や怪我には十分に気をつけ教職員間でも気がついたことは連携を取り合い保育に当たっている。
- ・ 行事の持ち方について、園全体として共通理解を持って取り組めるよう教師間の十分な話し合いの中でねらいをもち、進めていくことが出来た。
- ・ 保育者同士の協力連携については、教師間での日常の会話や園内研での様々な情報交換を大切にしている。また、担任以外の園児も全職員が理解するように心がけどの子に対しても適切な対応が出来るようにしてきた。

Ⅲ 教師としての能力や良識・適性

- ・ 教師一人一人が保育者としての専門性を磨き、意識して資質向上に努めようと日々努力していく必要がある。
- ・ 常に子どもの気持ちに寄り添いながら、様々な成長や思いに気づき共に喜び合う気持ちを大切にしている。
- ・ 常に教材や教具を使いやすいよう整理整頓を心がけ、無駄な使い方をしないように工夫するようになってきた。

IV 保護者への対応

- ・ 個々の子どもの様子を丁寧に伝えるよう心がけ、保護者との信頼関係を大切に過ごしてきた。保育者の考えを保護者に伝えるときには、教職間でしっかりとした話し合いを持って共通の対応をしていくことで保護者の変化が見られた。
- ・ 毎月のクラス便りや連絡帳、学期ごとのカラークラス便りなどを通して園児の様子を知らせたり、インターネットを活用して日常の子どもの姿や生活などを伝えたりすることで、幼稚園への理解を深めてもらうようにしてきた。
- ・ 保護者からの要望には園としての対応を早急に話し合い、環境の改善や保育の充実を図ってきた。

V 地域の自然や社会とのかかわり

- ・ 未就園児サークルの開始を早めたり、園庭開放を行ったりしたことで地域の子供たちに多く遊びに来てもらうことができ園のアピールにもつながったり、教職員とのつながりを感じてもらったりすることが出来た。活動内容を工夫し、園に興味や関心を持ってもらうことも出来た。
- ・ 園児と本園修了生と共に野外体験活動を行ったり、岩手の伝統まつりさんさに参加したりしたことで、地域に幼稚園の存在と積極性をアピールすることが出来た。今後も継続して色んな活動を通し積極的な地域参加を目指していきたい。
- ・ 屋外掲示板の設置により、園の教育内容や園生活の様子などを具体的に地域の方々に紹介することが出来た。今後も掲示の工夫を計り、分かりやすく興味関心を持ってもらえるように活用していく。
- ・ 地域のデイサービスホームに2回訪問しお年寄りの方々とふれあいを通し、地域とのつながりを持つことが出来た。

VI 研修と研究

- ・ 厨川幼稚園の園庭にあるもりもりランドについて、園独自の環境として位置づけ研究を進めている。来年度も継続して行い保育の充実につなげていく。
- ・ 対外的な研修会に積極的に参加しそれぞれの教師が自らを高める機会となった。

4 評価結果について

- ・ 幼児教育の充実を図るためには、教職員一人一人が園の教育理念や教育方針を理解し、教育目標をしっかり捉え、一人一人の保育に映し出される努力を更にしていく必要性を感じた。
- ・ 教育課程の改善に取り組み、幼稚園教育要領とつながった教育課程作成を目指していくための時間の確保の工夫をしていく。
- ・ 多様化している保護者のニーズを探り、親と子の育ちの場としての役割が果たせるように子育て支援の取り組みの幅を広げ充実した支援を実施していきたい。

5 今後の課題

① 教育内容の充実

- ・ 園の教育理念や教育方針、幼稚園教育要領の教師間の共通理解を深め、子どもの実態に合わせた保育内容の展開を実践する。
- ・ 園独自の環境を生かした研究を継続して取り組み、より教育内容の充実を図る。

② 園児確保に努める

- ・ 地域とのつながりを深め、未就園児親子に対する子育て支援の充実を図り、地域と密着した支援を検討し取り組んでいくようにしたい。
- ・ 園の教育内容をより広く地域に発信していくことで、附属幼稚園として理解を得、その存在をアピールしていく機会を増やしていきたい。

③ 附属幼稚園としてのありかた

- ・ 教員養成幼稚園として、積極的に学生を受け入れ園生活の中に位置づけ、教師と学生互いの学びの場として、役割を担いたい。
- ・ 学生を育てる保育現場の指導者として、教員の指導力を高めていく。